

# 令和4年度 文京区立昭和小学校 授業改善推進プラン

## 第3学年

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字の定着が低い。漢字の学習には意欲的に取り組むが、正確に漢字を書いたり、文章の中で使ったりできない。</li> <li>○ローマ字表記に慣れていない。</li> <li>○伝えたいことを中心をはっきりさせて話したり書いたりする力が付いていない。</li> <li>○説明文において、話の中心を捉えて読む力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○漢字を学習する際に、その漢字の意味や成り立ちに意識を向けさせる。日常的に積極的に漢字を使わせる。</li> <li>○日々の中でローマ字に触れる機会を設ける。</li> <li>○自分の考えの中心とその効果的な伝え方を工夫させる。</li> <li>○中心となる語や文を見付けさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○辞書を活用する。継続的に漢字テストを行う。文章を書く活動の際には使うよう声をかける。ノート指導の中で直す。</li> <li>○タイピングソフトを活用する。ノート等で単語を読み書きするなど、活用ができる機会を増やす。</li> <li>○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして表現させる。</li> <li>○キーワードや話の中心に印を付けながら読んだり書き取ったりする活動を取り入れる。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料から読み取ったり、気付いたことを表現したりする力が十分ではない。</li> <li>○学習内容によって、興味関心や理解度に個人差が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料から分かることをまとめたり、気が付いたことを書かせたりして、表現力を高める。</li> <li>○生活経験や身近な例を提示することで、学習意欲を向上させ、知識の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資料の読み方や注目すべきポイントを提示したり、動画やICTを活用してまとめ方を解説したりして、社会科における表現力を向上させる。また、友達表現のよさを取り入れることができるように、友達と意見を交流する場を設定する。</li> <li>○児童の実態に合わせて、生活経験や身近な例などに着目させることで興味関心をもたせる。また、生活経験と学習内容を関連付けて考えられるように、テーマ設定を工夫する。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見通しをもち、筋道立てて課題解決しようとする児童が少ない。</li> <li>○計算の知識をもっている児童は多いが、算数の言葉を使って考えを説明できる児童が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○既習内容の確認や、問題文から「分かっていること」と「求めること」を正確に捉えさせようとして自力解決に取り組ませる。</li> <li>○児童同士の学び合いの時間を十分に確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○見通しをもちながら課題解決ができるよう、学習の進め方を工夫して指導する。また、自力解決の時間を確保し、自分の考えを表現することができるようにする。</li> <li>○図や文章、具体物の操作等を通して、式と関連付けながら説明できるようにする。児童同士の学び合いを通して、自分の考えを深めることができるようにする。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自然の事物・現象から自ら問題を見いだすことが十分にできていない。</li> <li>○問題解決の流れを自覚して学習に取り組めていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○差異点や共通点を基に問題を見いだす。</li> <li>○未知の問題に直面したときの解決方法を自ら考え実行できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事象提示を工夫し、差異点や共通点といった比較の考え方を働かせられるようにする。</li> <li>○一人一人が問題を見いだせるように問題設定の場を、年間を通して設ける。</li> <li>○問題解決の過程で見通しをもたせるような声かけを行い、形だけの問題解決にならないように留意する。</li> </ul>

教科	指導上の課題の分析⇒	指導の在り方⇒	授業改善の視点
体育	<p>○運動に対する意欲はあるが、基本的な運動技能を十分に身に付けられていない児童が多い。</p> <p>また、運動が得意な児童も一つの動きに特化しており、多領域にわたって基本的な運動感覚を身に付けている児童は少ない。</p> <p>○自己の課題を意識したためあてを立て、その解決のための方法や活動の工夫を考えられる児童が少ない。</p>	<p>○学習内容ごとに、動きのポイントやこつを確認し、動きのよさを理解し、感覚づくりの時間を十分に確保する。</p> <p>○学習カード等を活用し、自分に合ったためあてを立てることができるようにする。</p> <p>○児童同士の学び合いができるように教師が働きかける。</p> <p>○単元計画や場の設定を工夫する。</p>	<p>○動画やタブレットなどを活用し、体の動かし方のポイントやこつをイメージしやすいように伝える。</p> <p>○感覚づくりのための補助運動の時間を取り入れ、楽しみながら様々な体の動かし方を身に付けられるようにする。</p> <p>○タブレットやワークシートを活用し、客観的に自己の課題を明確にする。児童同士が取り組んだ内容や成果を助言し合うことで、解決のための方法や活動の工夫ができるようにする。</p> <p>○単元の前半では多くの場を提示して、単元後半では児童が自らの課題に応じて場を選択したり、提案したりできるようにする。</p>
音楽	<p>○歌唱や学期を楽しんで演奏する児童が多い。しかし、技能面では個々に差があり、思うように活動できない児童がいる。</p> <p>○音楽づくりでは、音楽に対する自分なりの考えや発想をもつ児童が少ない。</p>	<p>○課題を明確にしなが、児童の学習の様子を随時確認しつつ、スモールステップで指導・助言を行い、歌や楽器における演奏技能を向上させる。</p> <p>○児童が思いや意図をもって表現できるようにさせる。</p>	<p>○範奏を多くしたり、お互いの演奏を聴き合ったりし、どのように表現したいかのイメージをもたせ、それを生かした形で練習に取り組めるようにする。</p> <p>○児童の発想を引き出すために、音楽的語彙力を高めていくとともに、想像が広がるような言葉かけや作例を用いて指導する。また、できたことに対して称賛し、自信をもたせて次の学習への意欲を高めていく。</p>
図工	<p>○自由な発想をもって作品の構想を練るものの、課題目標を理解していない児童もいる。</p> <p>○意欲的に活動に取り組んでいる児童が多いが、粘り強く取り組むのが苦手な児童もいる。</p>	<p>○課題説明のあとに複数の作品・見本を提示し、目的にあった作品構成の理解を促す。</p> <p>○意欲が持続するような題材選定をする。また、授業の途中で友達の作品を見合う時間を設け、作品に生かすとともにお互いの意欲を高めさせる。</p>	<p>○課題目標と題材・使用する道具についての直線的な理解をもって、自由な発想を引き出す発言の場を設ける。</p> <p>○さまざまな表現方法を示し、作品の製作途中の鑑賞を取り入れながら、人と違った良さを認め合い、児童一人一人の学び合いを深める。</p>